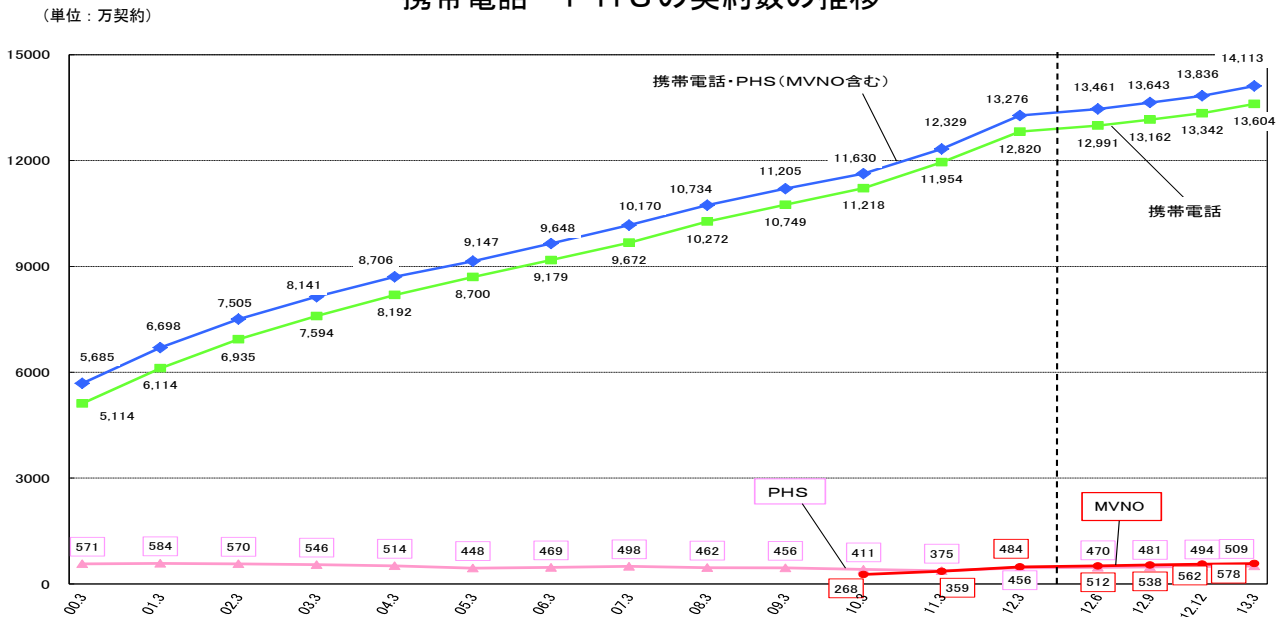


1 移動系通信

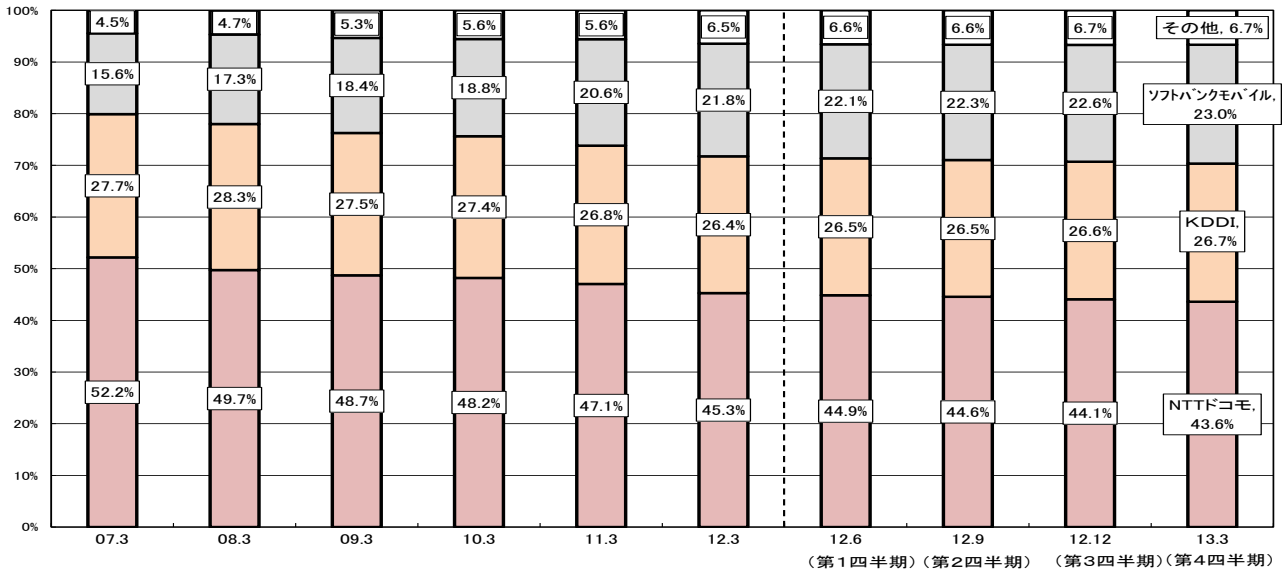
- 携帯電話・PHSの契約数（MVNO含む）は13年3月末で1億4,113万（前期比+2.0%）と増加が続いている。携帯電話は1億3,604万（前期比+2.0%）と増加が続いている。また、PHSは509万（前期比+3.0%）と増加が続いている。
- 携帯電話・PHS契約数におけるNTTドコモのシェアは43.6%（前期比▲0.5ポイント）と減少を続けている一方で、KDDIのシェアは26.7%（前期比+0.1ポイント）とおおむね横ばい、ソフトバンクモバイルのシェアは23.0%（前期比+0.4ポイント）と増加が続いている。
- なお、MVNO契約数（携帯電話・PHSの契約数の内数）については、13年3月末で578万加入（前期比+2.8%）と増加している。

携帯電話・PHSの契約数の推移



注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

携帯電話・PHS契約数の事業者別シェアの推移



注1：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。
 注2：08年3月末までのNTTドコモにはPHS契約数が含まれている。
 注3：11年3月末までは社団法人電気通信事業者協会資料による。

2 データ通信

(1) 移動系

- **移動系データ通信^{※1}の契約数は、13年3月末で1億4,161万となっている。そのうちの通信モジュール^{※2}の契約数を除いた場合の契約数は、1億3,267万となる。データ通信専用サービス^{※3}の契約数は2,738万となっている。**
- **移動系データ通信におけるNTTドコモのシェアは43.5%、KDDIのシェアは23.9%、ソフトバンクモバイルのシェアは22.4%となっている。**
- **移動系超高速ブロードバンドサービス^{※4}の契約数は、13年3月末で2,567.4万（前期比+40.4%）と増加が続いている。3.9世代携帯電話アクセスサービスの契約数は2,036.2万（前期比+49.4%）、BWAアクセスサービスの契約数は531.3万（前期比+14.0%）と増加が続いている。**

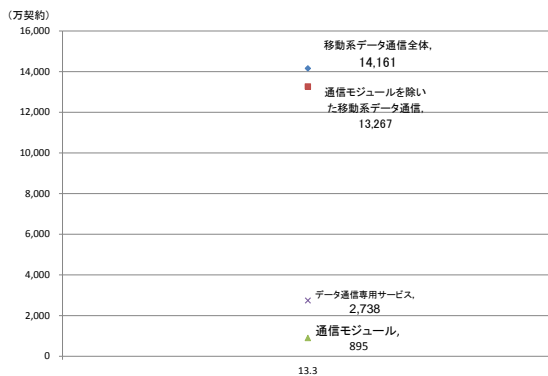
※1 携帯電話・PHSアクセスサービス及びBWAアクセスサービスの合計。

※2 通信モジュールとは、自動販売機、エレベータ、デジタルフォトフレーム等の機器に組み込み、機械同士の通信等に利用される部品（モジュール）をいう。

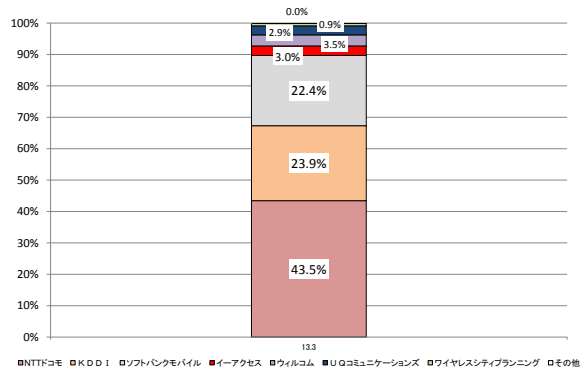
※3 携帯電話・PHSアクセスサービスのうち、提供する回線において音声伝送役務が提供されていないもの及びBWAアクセスサービスの合計。

※4 3.9世代携帯電話アクセスサービス及びBWAアクセスサービスの合計。

移動系データ通信の契約数

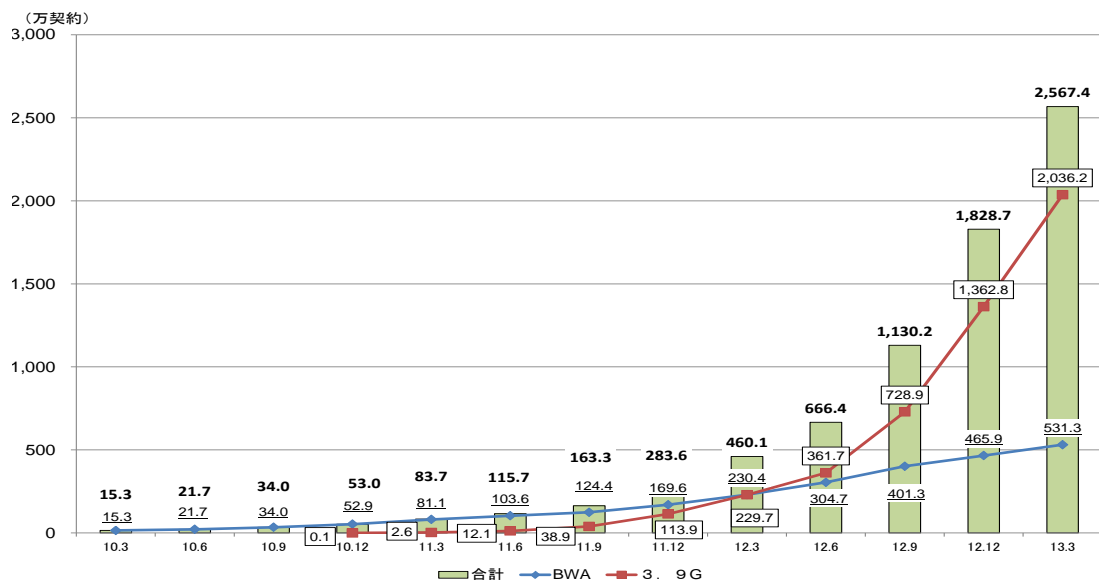


移動系データ通信の契約数の事業者別シェア



注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

移動系超高速ブロードバンドサービス契約数の推移



注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

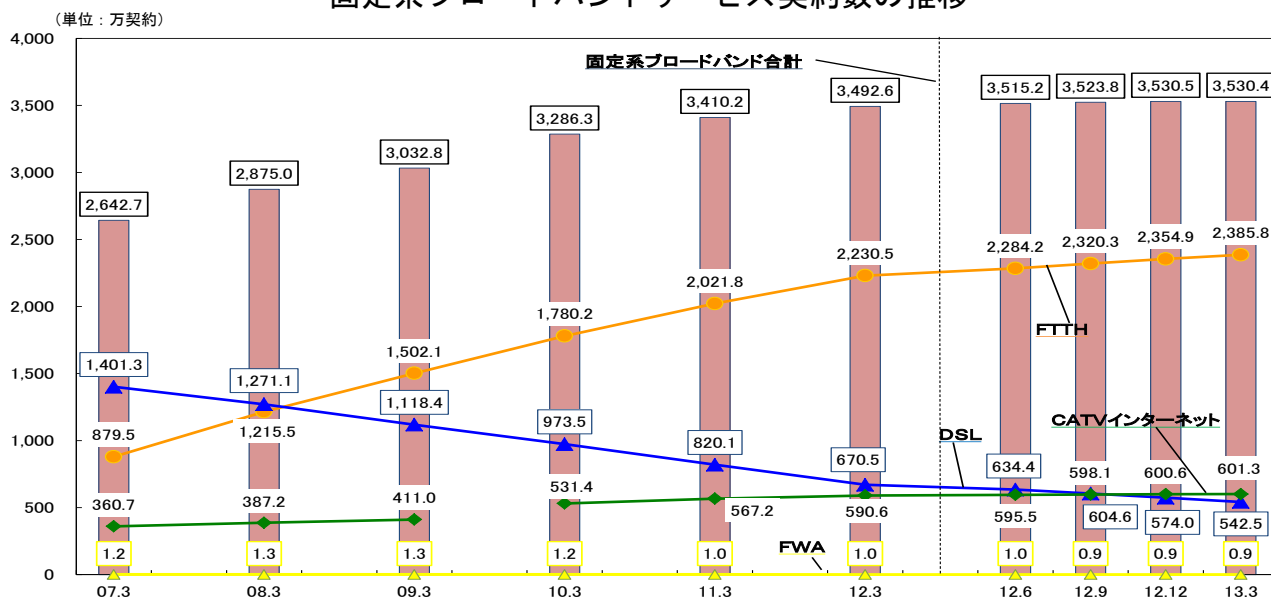
(2) 固定系

① ブロードバンド全体

- 固定系ブロードバンドサービス[※]の契約数は13年3月末で3,530.4万（前期比±0%）と横ばいとなっている。
- FTTHの契約数は2,385.8万（前期比+1.3%）と増加が続いている。
- DSLの契約数は542.5万（前期比▲5.5%）と減少が続いている。
- 固定系ブロードバンド契約数におけるNTT東西のシェアは、54.2%（前期比±0ポイント）と横ばいとなっている。

※ FTTHアクセスサービス、DSLアクセスサービス、CATVアクセスサービス及びFWAアクセスサービスの合計。

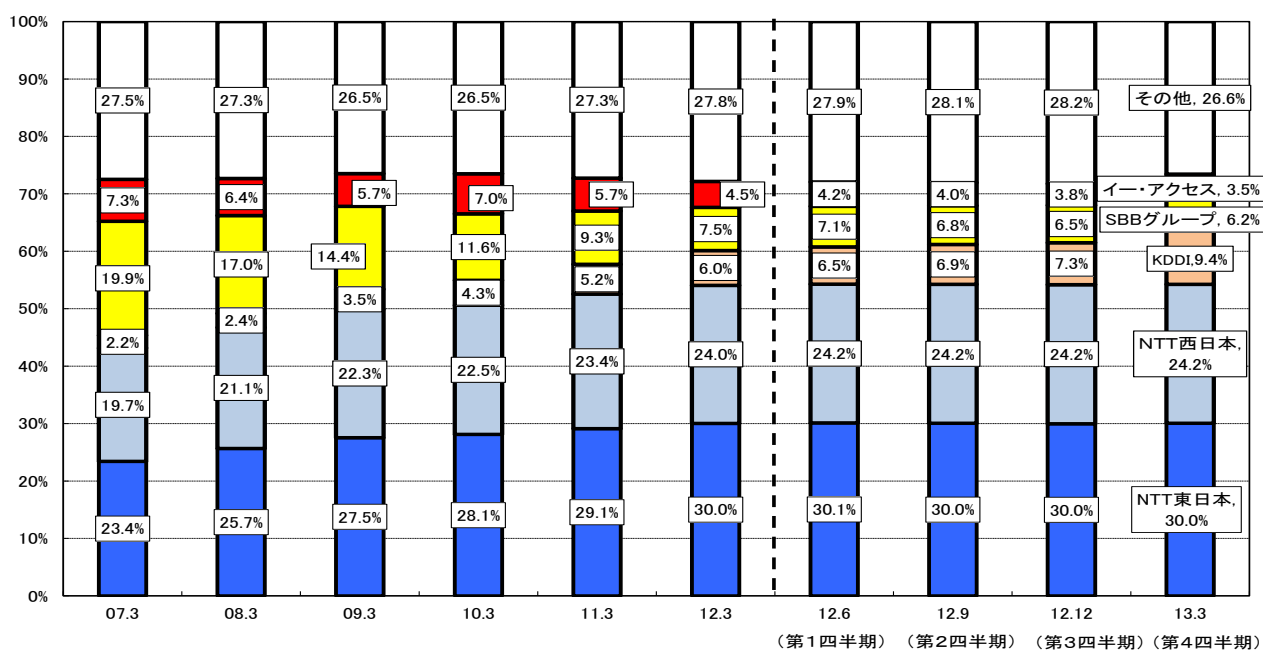
固定系ブロードバンドサービス契約数の推移



※ 一部の事業者より契約数について集計方法の変更が報告されたため、2010年3月末の固定系ブロードバンド合計及びCATVインターネットの契約数及びシェアについて、前期との間で変動が生じている。

注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

固定系ブロードバンドサービス契約数の事業者別シェアの推移



注1：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

注2：09年6月にイー・アクセスがアッカ・ネットワークスを合併したことに伴い、09年第1四半期より、アッカ・ネットワークスはイー・アクセスに含める。以下同じ。

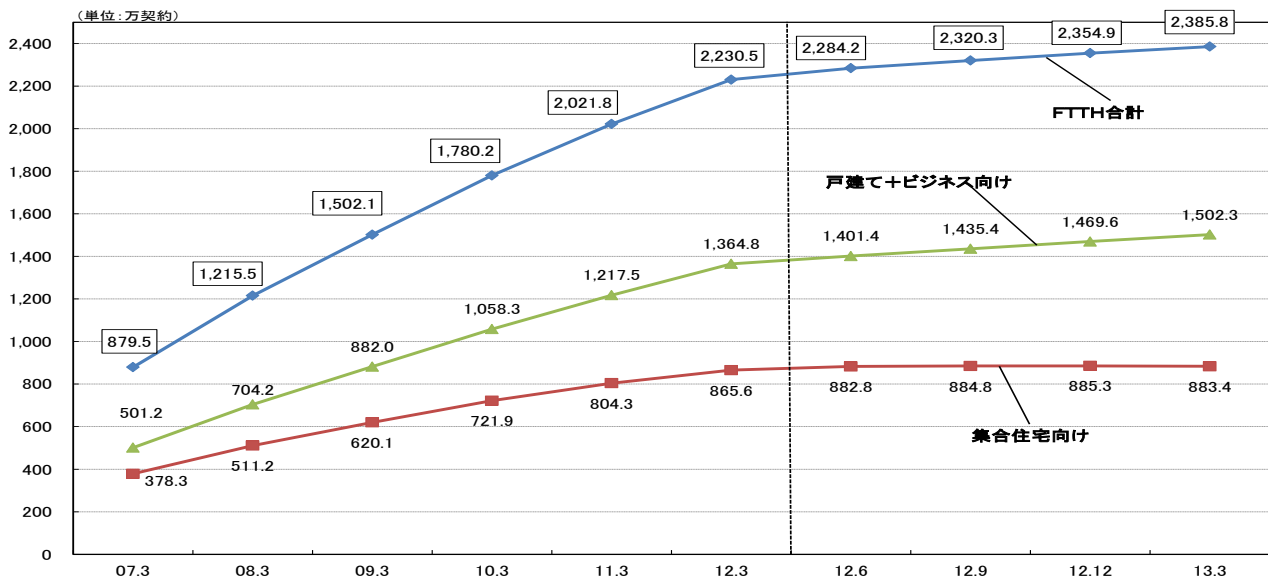
注3：13年3月より、KDDIにJCNを含めることとしている。

注4：この固定系ブロードバンド契約数の事業者別シェアはFTTH、DSL及びCATVインターネットを対象としており、FWAアクセスサービスを含んでいない。

② FTTH（光ファイバ）

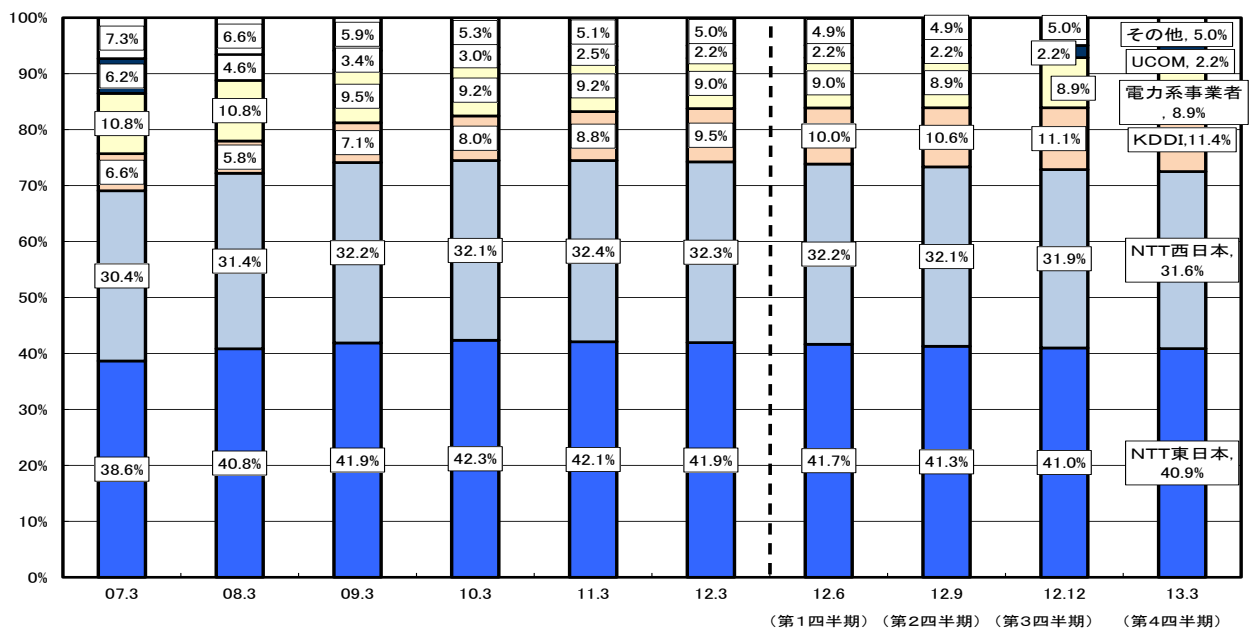
- FTTHの契約数は13年3月末で2,385.8万（前期比+1.3%）と増加が続いている。
- 全体のシェアについては、NTT東西のシェアは72.5%（前期比▲0.4ポイント）と減少、電力系事業者は8.9%（前期比±0ポイント）と横ばい、KDDIは11.4%（前期比+0.3ポイント）と増加が続いている。
- NTT東西のシェアについては、「戸建て+ビジネス向け」は73.4%（前期比▲0.5ポイント）と減少が続いており、「集合住宅向け」は70.9%（前期比▲0.3ポイント）と減少している。

FTTH契約数の推移



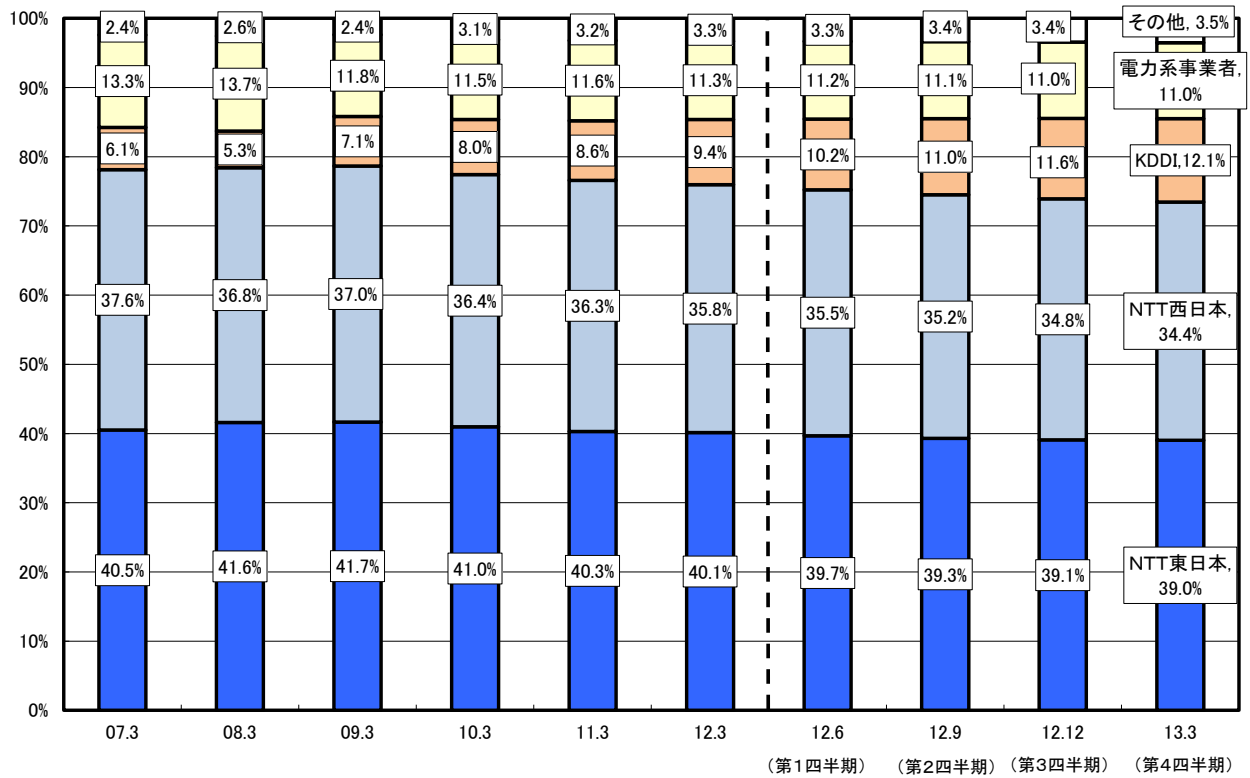
注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

FTTH契約数の事業者別シェアの推移（全体）



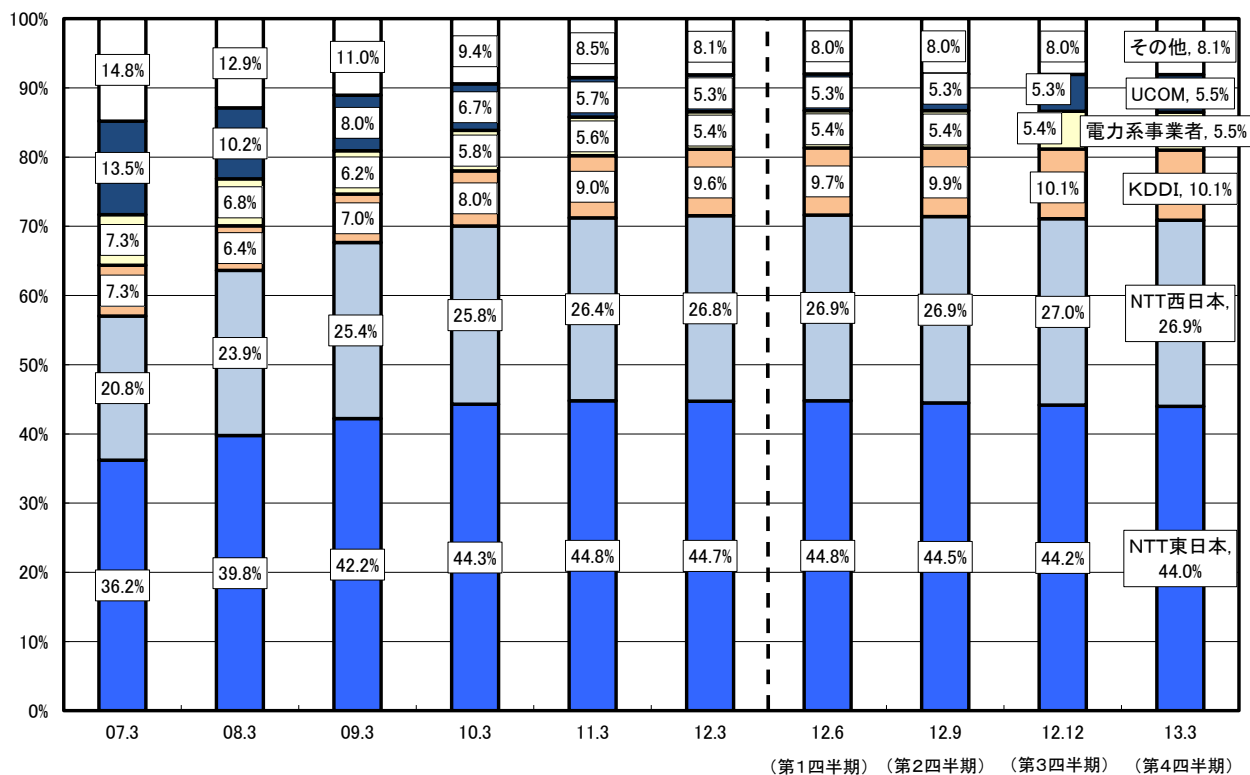
注1：中部テレコミュニケーションは、08年4月の株式の一部譲渡により、KDDIに含める。以下同じ。
注2：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

F T T H契約数の事業者別シェアの推移（戸建て+ビジネス向け）



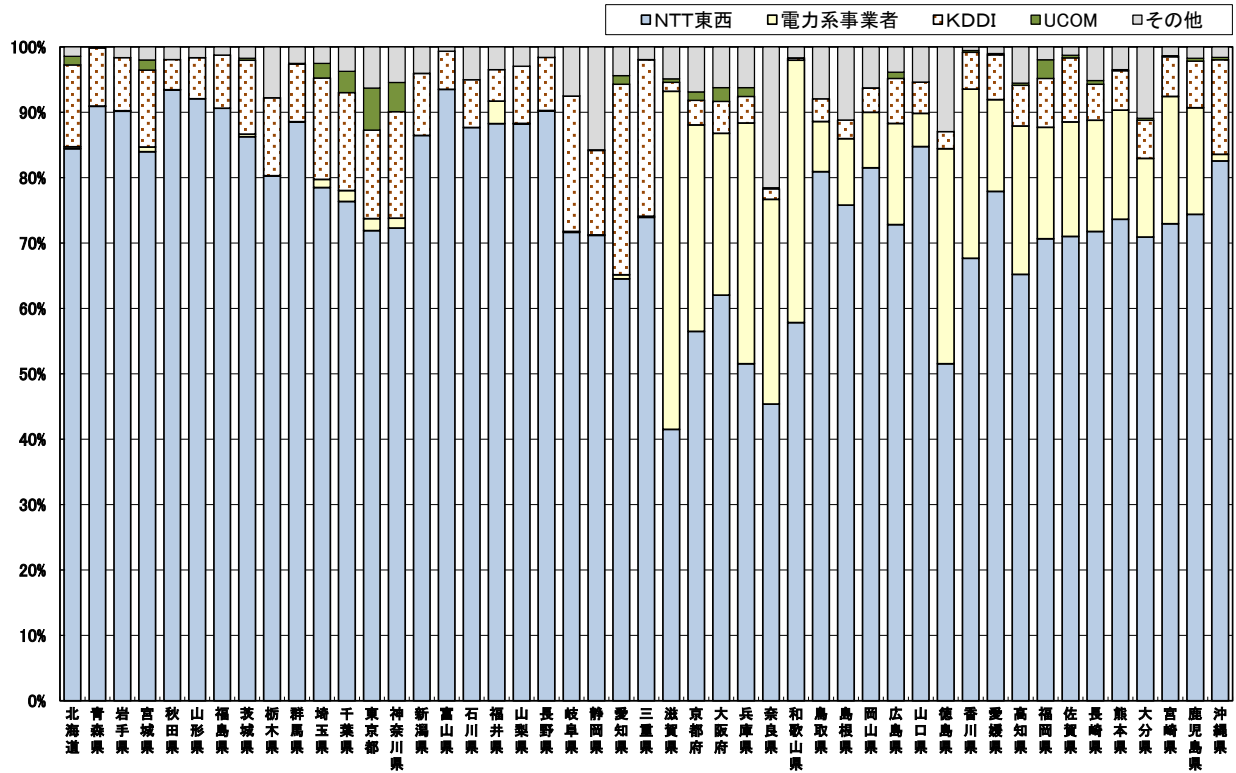
注：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

F T T H契約数の事業者別シェアの推移（集合住宅向け）



注：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

F T T H全体の契約数の都道府県別事業者シェア（13年3月末）



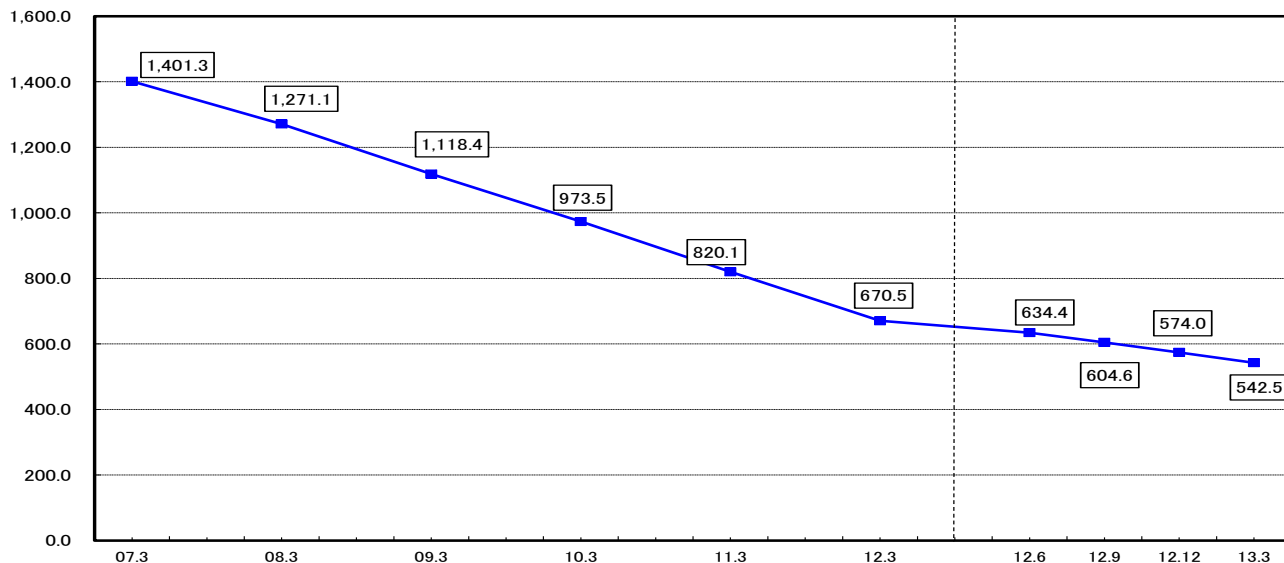
注：都道府県別のシェアについてはグラフのみ公表。

③ DSL

- DSLの契約数は13年3月末で542.5万(前期比▲5.5%)と減少が続いている。
- シェアについては、シェア1位のソフトバンクBBは40.0%(前期比+0.4ポイント)と増加が続いており、シェア2位のNTT東西は34.1%(前期比▲0.2ポイント)と減少傾向となっている。

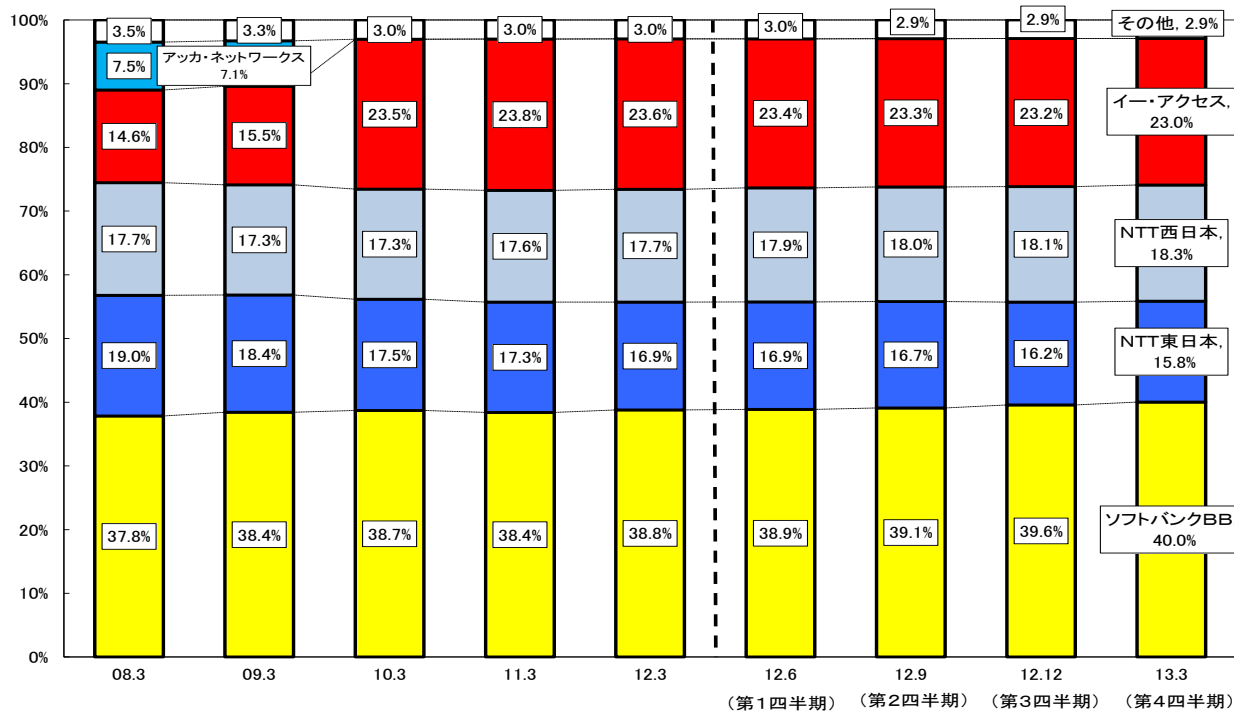
DSL契約数の推移

(単位：万契約)



注：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

DSL契約数の事業者別シェアの推移（全国）

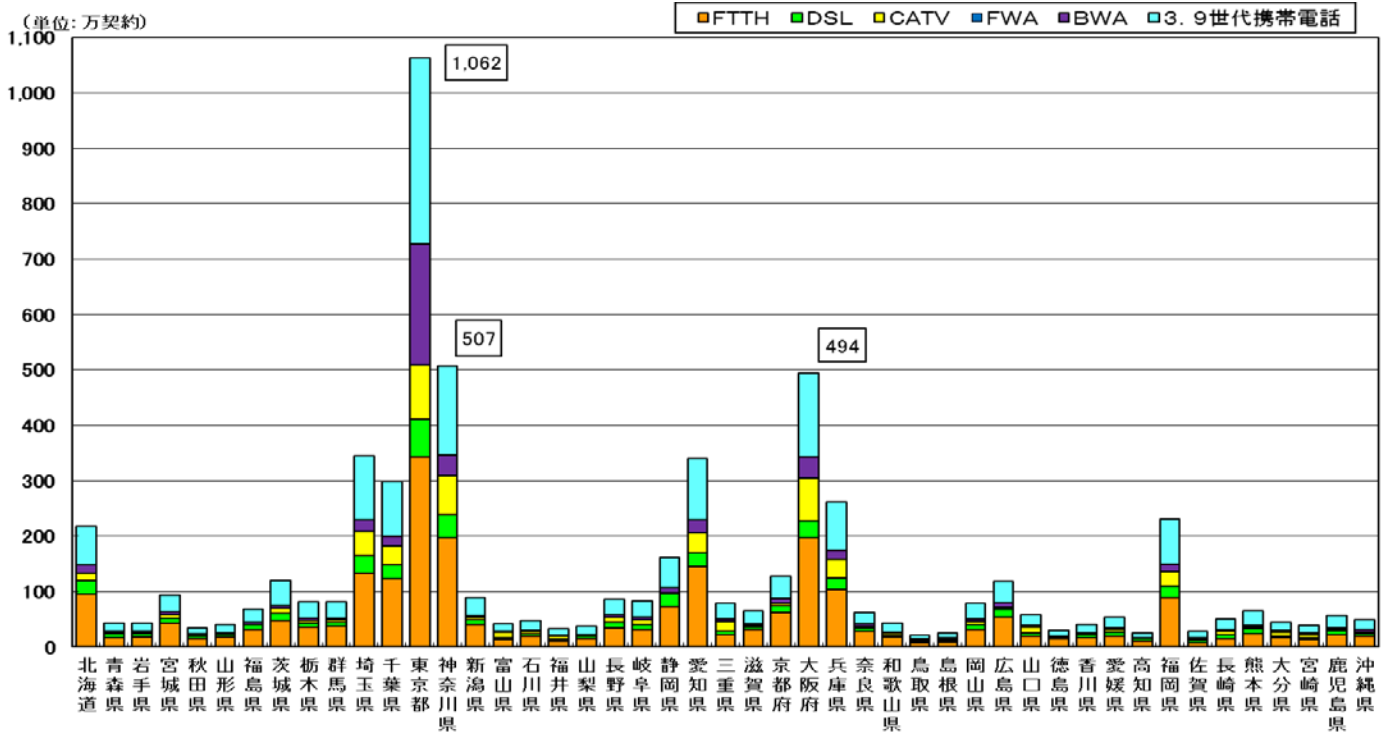


注：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

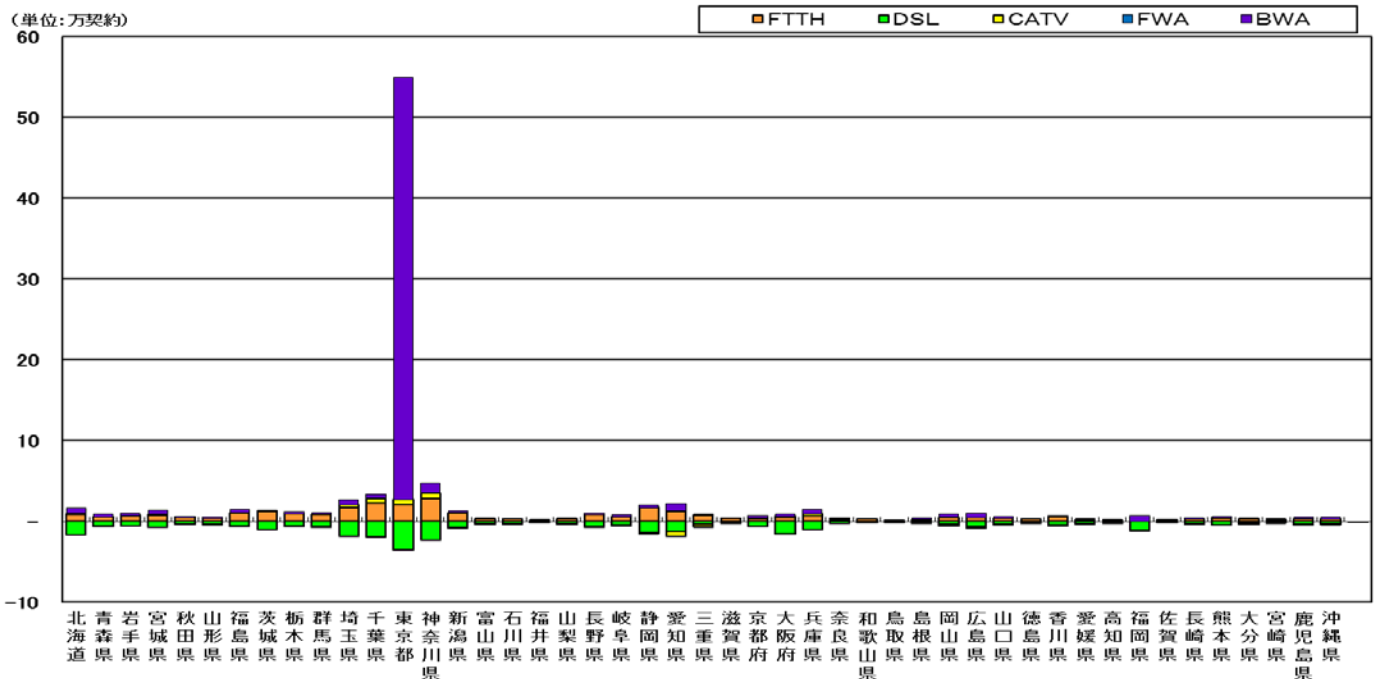
(3) ブロードバンドサービスの都道府県別契約数

- FTTHの契約数は福岡県を除く46都道府県で増加し、DSLの契約数は全ての都道府県で減少している。
- 39都道府県でFTTHが最も高い割合を占めている。また、8県で3.9世代携帯電話が最も高い割合を占めている。

ブロードバンドサービスの都道府県別の契約数

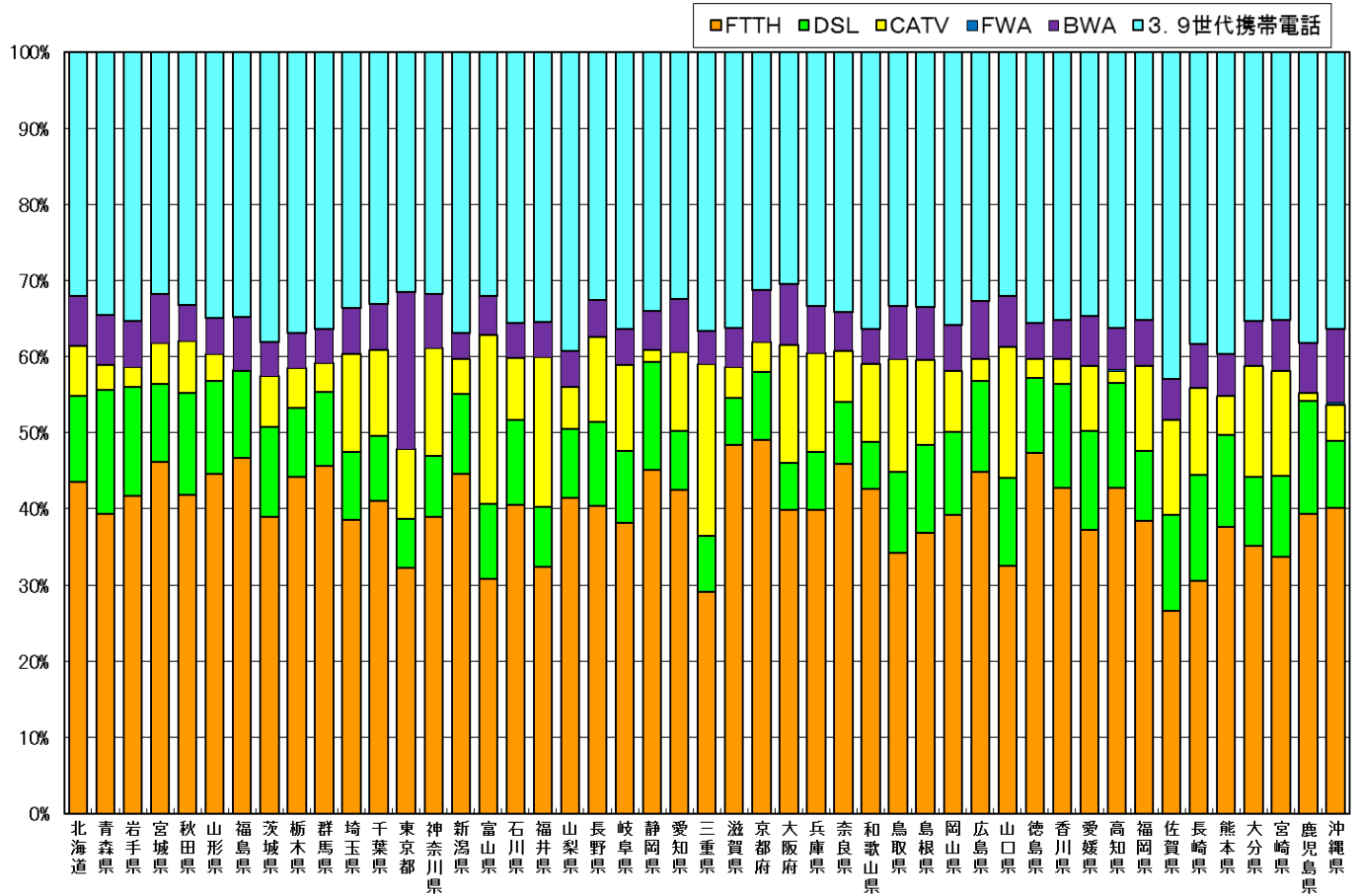


各ブロードバンドサービスの都道府県別の純増減数 (対前期比)



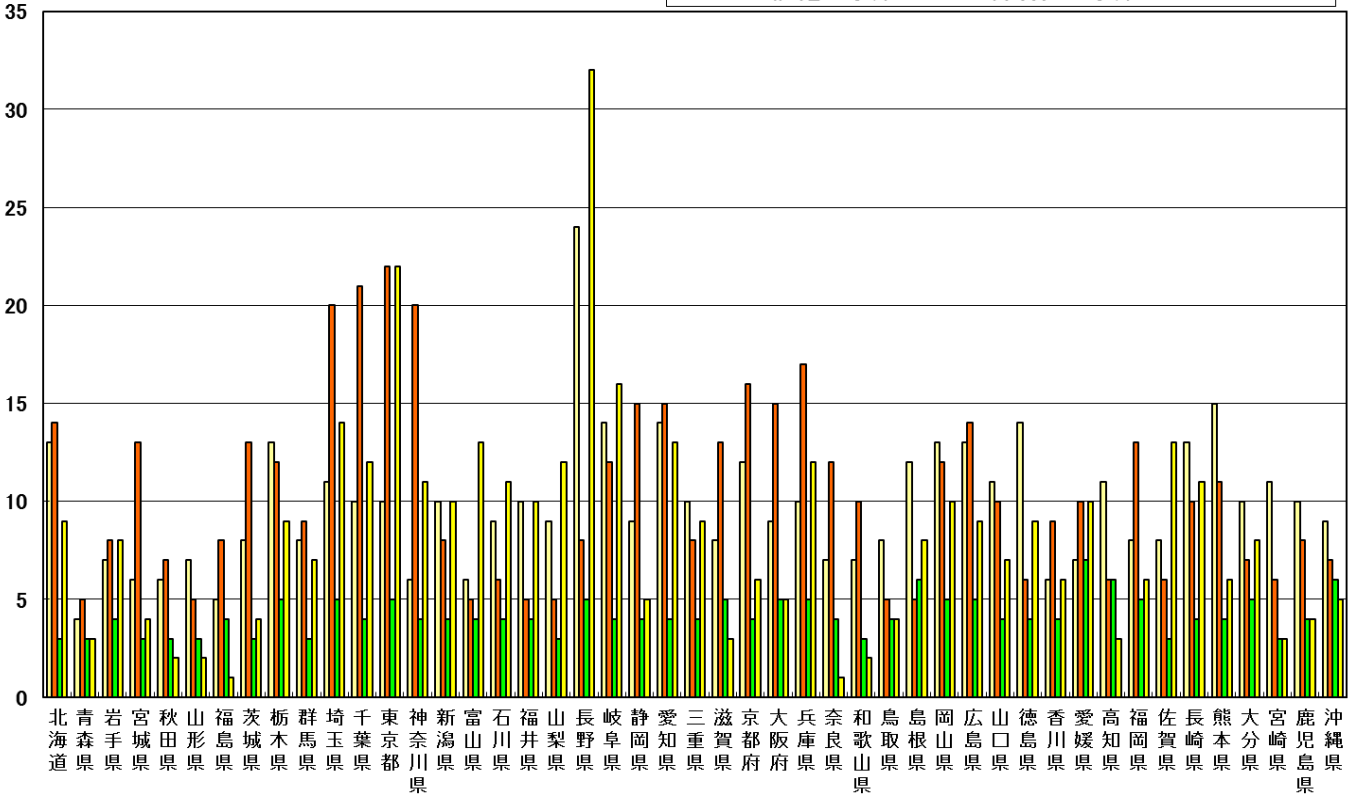
注：3.9世代携帯電話アクセスサービスについては、今期より都道府県別契約数の集計を開始したことから、前期との比較ができないため、「各ブロードバンドサービスの都道府県別の純増減数 (対前期比)」のグラフには含まれていない。

都道府県別のブロードバンドサービスの比率



各ブロードバンドサービスの都道府県別提供事業者数

(単位:社)

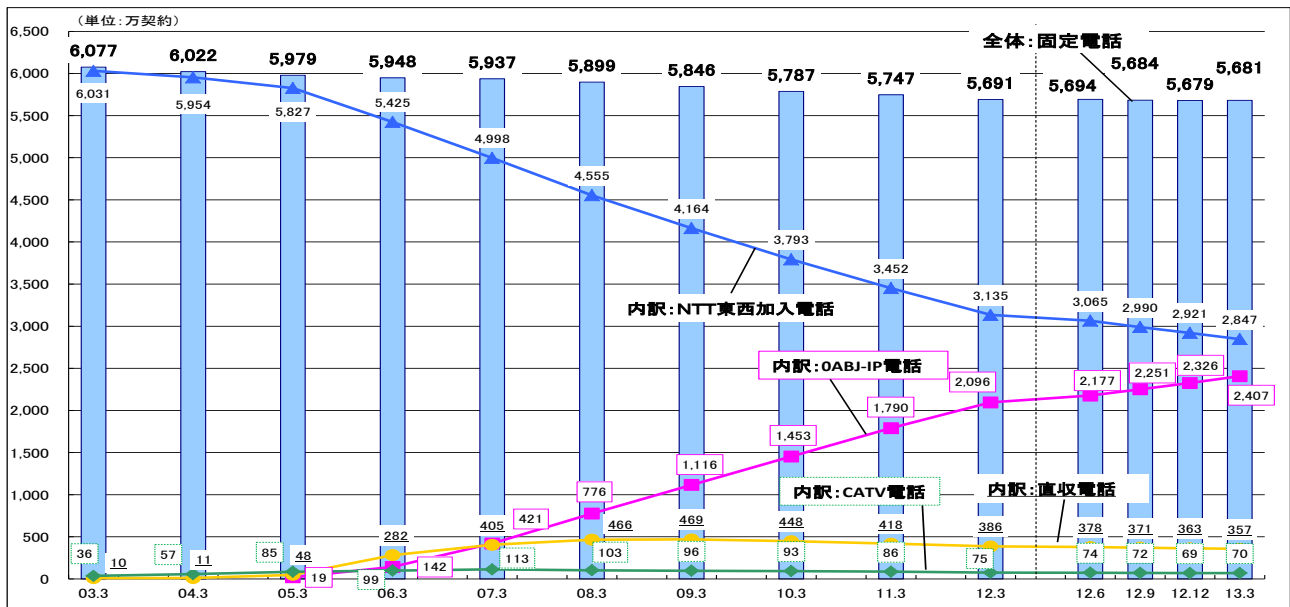


3 音声通信（固定系）

(1) 固定電話

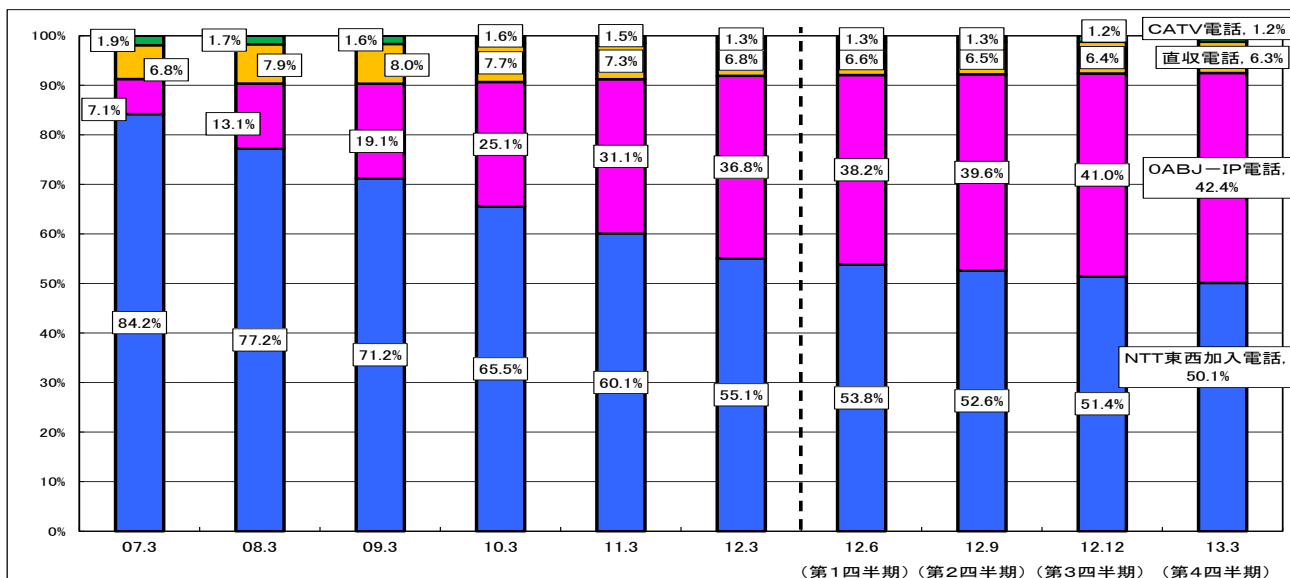
- 固定電話（NTT東西加入電話、直収電話、OABJ-IP電話及びCATV電話）全体の契約数は、13年3月末で5,681万（前期比±0%）と横ばいとなっている。このうち、NTT東西加入電話は2,847万（前期比▲2.5%）と減少が続く一方、OABJ-IP電話は2,407万（前期比+3.5%）と増加が続いている。
- 固定電話契約数全体に占めるNTT東西のシェア（NTT東西加入電話とOABJ-IP電話の合計）は、76.5%（前期比▲0.7ポイント）と減少が続いている。

固定電話の契約数の推移



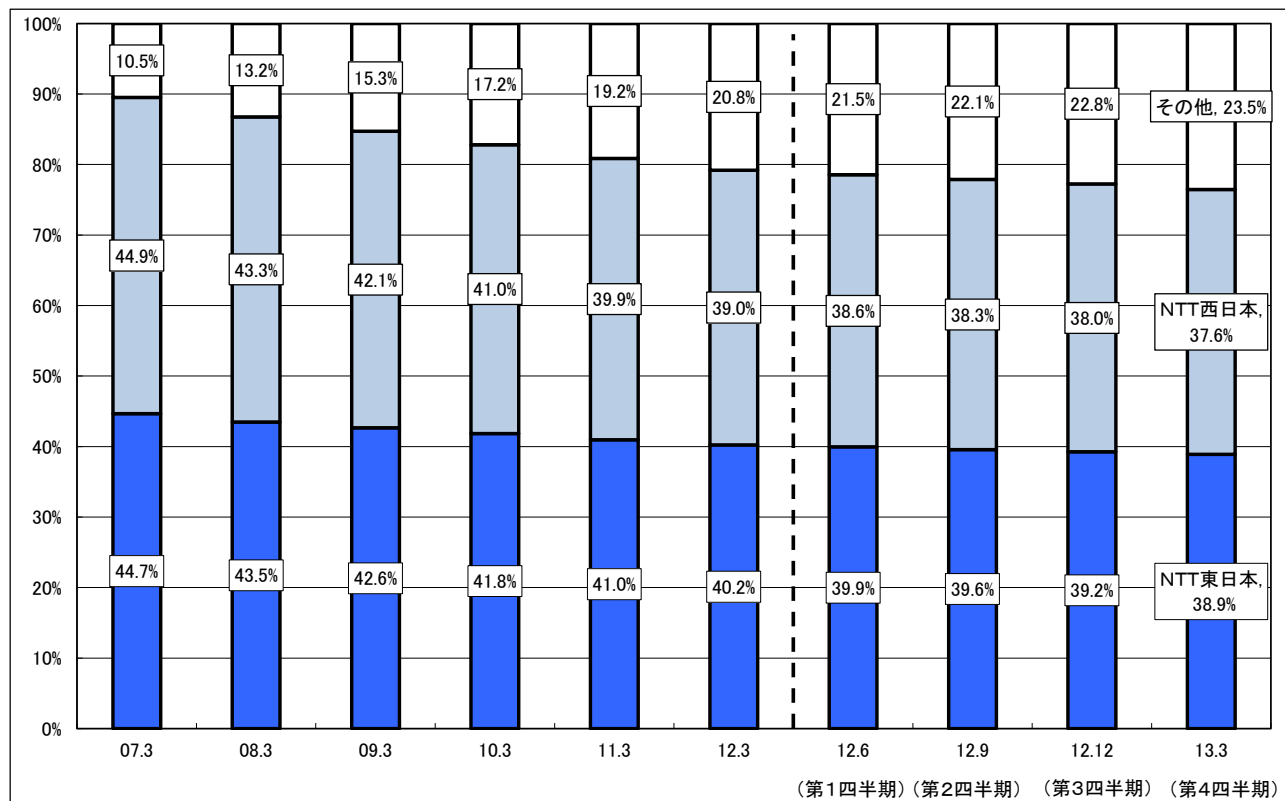
注1：固定電話とは、NTT東西加入電話（ISDNを含む）、直収電話（直加入、新型直収、直収ISDNの合計）、OABJ-IP電話、CATV電話をいう。
 注2：OABJ-IP電話は、利用番号数をもって契約数とみなしている。
 ※ なお、OABJ-IP電話はNTT加入電話等との代替性が高いため固定電話に加えたが、IP電話としてもP.12以降に再掲している。
 注3：各契約数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

固定電話サービスのシェアの推移



注：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

固定電話の契約数に占めるNTT東西のシェアの推移



注1：NTT東西のシェアは、それぞれ加入電話（ISDNを含む）、0ABJ-IP電話の合計を示す。

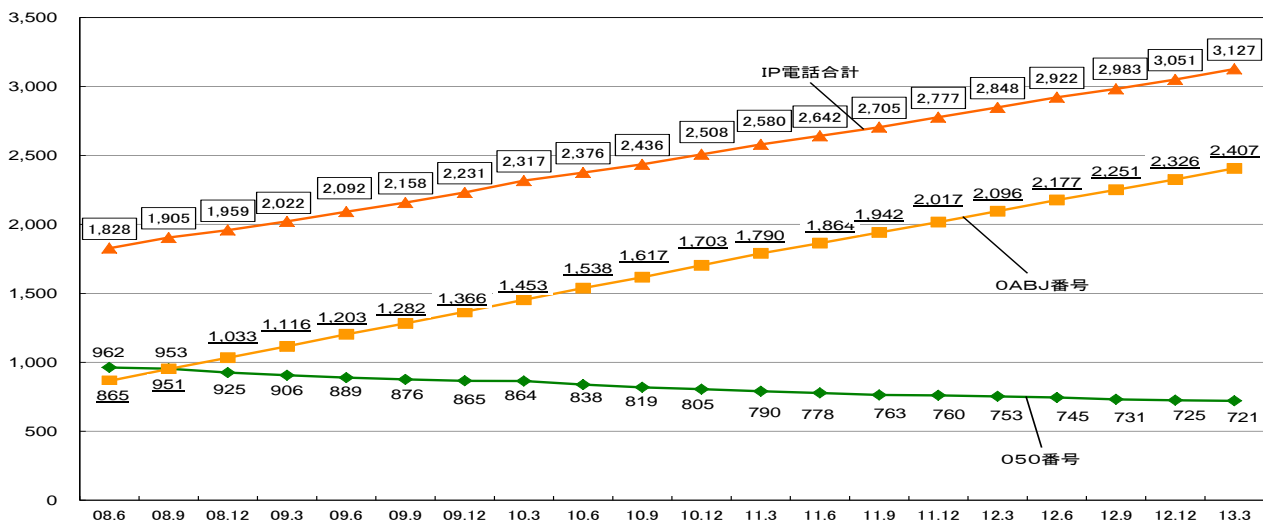
注2：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(2) IP電話

- IP電話の利用番号数は、13年3月末で3,127万（前期比+2.5%）と増加が続いている。このうち、OABJ番号の利用数は2,407万（前期比+3.5%）と増加が続く一方、O50番号の利用数は、721万（前期比▲0.6%）と減少が続いている。
- OABJ番号におけるNTT東西のシェアは、62.2%（前期比▲0.8ポイント）と減少を続けているのに対し、KDDIのシェアは23.0%（前期比+0.7ポイント）と増加が続いている。
- O50番号におけるシェアについては、NTTコミュニケーションズは40.4%（前期比+0.3ポイント）と増加しているのに対し、ソフトバンクBBは37.4%（前期比▲0.6ポイント）と減少が続いている。

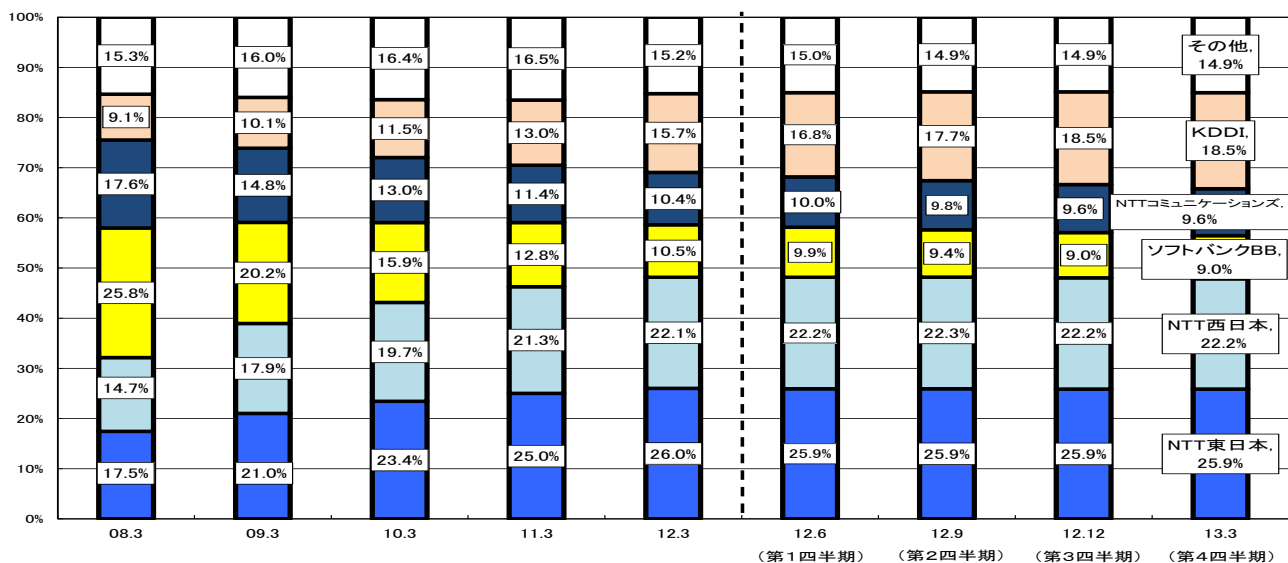
IP電話の利用番号数の推移

（単位：万番号）



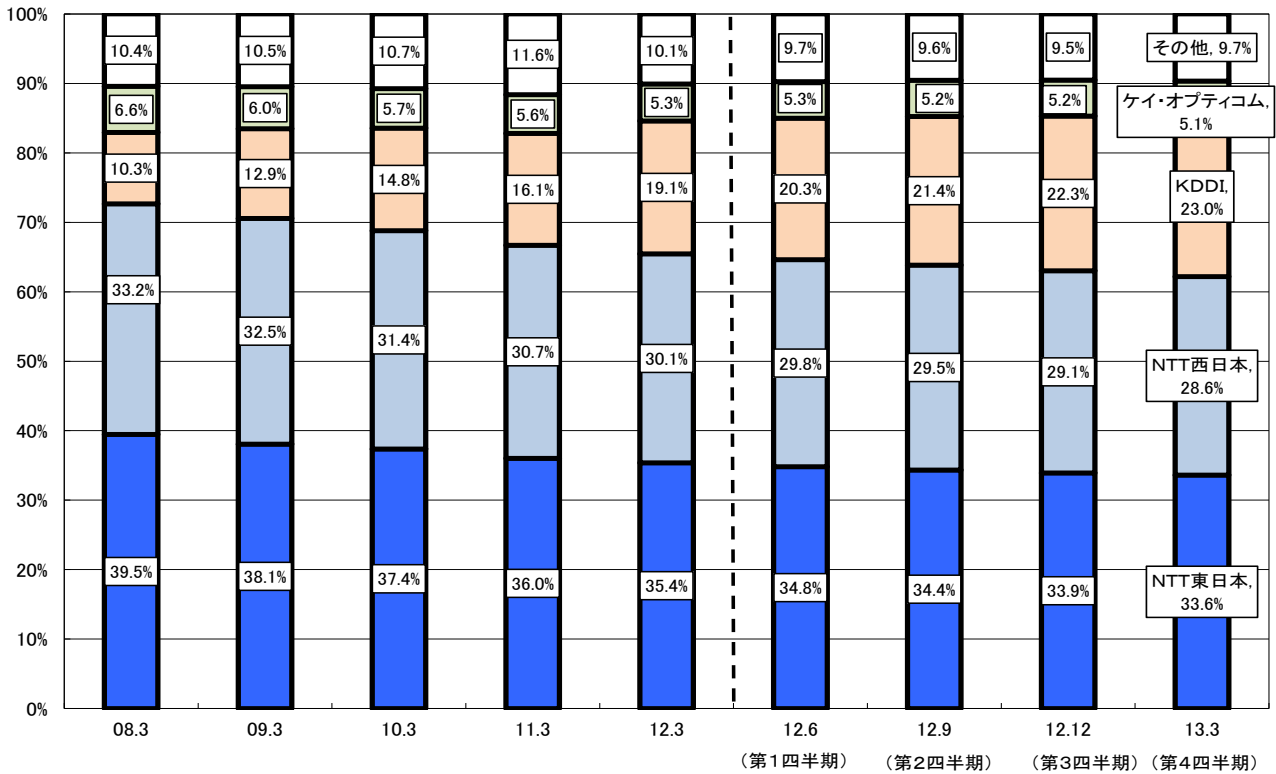
注：各利用番号数は四捨五入を行っているため、合計値が合わない場合がある。

IP電話の利用番号数の事業者別シェアの推移（全体）



注：四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

I P電話の利用番号数の事業者別シェアの推移（0 A B J 番号）



I P電話の利用番号数の事業者別シェアの推移（0 5 0 番号）

